

Amended Transcript - Extract 4

Section 1

- せん
千 この駅でいいんだよね。...行こう。
かた
肩に乗っていいよ。
- ぜにーば
銭婆 お入り。
- せん
千 失礼します。
- ぜにーば
銭婆 入るならさっさとお入り。
- せん
千 おいで。
- ぜにーば
銭婆 みんなよく来たね。
- せん
千 あっ、あのっ...!
- ぜにーば
銭婆 まあ、おすわり。今お茶を入れるからね。
- せん
千 ぜにーば
銭婆さん、これ、ハクが盗んだものです。お返しに来ました。
- ぜにーば
銭婆 お前、これが何だか知ってるかい？
- せん
千 いえ。でも、とっても大事なものだって。ハクの代わりにあやまりに
来ました。ごめんなさい。
- ぜにーば
銭婆 ...お前、これを持ってて何ともなかったかい？
- せん
千 えっ？
- ぜにーば
銭婆 あれ？^{まも}守りのまじないが消えてるね。
- せん
千 ...すいません。あのハンコについてた変な虫あたしが踏みつぶしちゃ
いました。
- ぜにーば
銭婆 踏みつぶしたあ！？...あっははははは。あんたその虫はね、妹が
でしあやつ^{りゅう}の腹に忍び込ませた虫だよ。
踏みつぶした...はっはははは...さあおすわり。お前はカオナシだね。
お前もおすわりな。

Transcript copied under part VB

せん
千

あつ、あの...この人達を元にもどしてあげてください。

ぜにーば
銭婆

おや？あんた達魔法はとっくに切れてるだろ。もどりたかったらもどりな。

ぜにーば
銭婆

あたし達二人で一人前なのに気が合わなくてねえ。ほら、あの人ハイカラじゃないじゃない？

まじよ ふたご もと
魔法の双子なんてやっかいの元ね。

お前を助けてあげたいけど、あたしにはどうすることもできないよ。

この世界の決まりだからね。

両親の事も、ボーイフレンドの竜の事も、自分でやるしかない。

せん
千

でも、あの、ヒントか何かもらえませんか？ハクと私、ずっと前に会ったことがあるみたいなんです。

ぜにーば
銭婆

じゃ話が早いよ。一度あった事は忘れないものさ...思い出せないだけで。ま、今夜は遅いからゆっくりしていきな。お前達手伝ってくれるかい？

ぜにーば
銭婆

ほれ、がんばって。そうそう、うまいじゃないか。ほんとに助かるよ。

魔法で作ったんじゃ何にもならないからねえ。

そこをくぐらせて...そう、二回続けるんだ。

せん
千

おばあちゃん、やっぱり帰る。...だって...こうしてる間に、ハクが死んじゃうかもしれない。お父さんやお母さんが食べられちゃうかもしれない。

ぜにーば
銭婆

まあ、もうちょっとお待ち。...さあ、できたよ。髪留めにお使い。

せん
千

わあ、...きれい。

ぜにーば
銭婆

お守り。みんなで紡いだ糸を編み込んであるからね。

せん
千

ありがとう。

ぜにーば
銭婆

いい時に来たね。お客さんだよ、出ておくれ。

せん
千

はい。

Transcript copied under part VB

Section 2

- せん
千 ああっ...!ハク!
ハク、会いたかった...ケガは?もう大丈夫なの?よかったあ...
- ぜにーば
銭婆 ふふふ、グッドタイミングね。
- せん
千 おばあちゃん、ハク生きてた!
- ぜにーば
銭婆 ハク^{りゅう} 竜、あなたのした事はもう^{とが}咎めません。その代わり、その子をし
っかり^{まも}守るんだよ。
さあ、^{ぼう}坊や達、お帰りの時間だよ。また遊びにおいで。
- ぼう
坊ネズミ ちゅう。
- ぜにーば
銭婆 お前はここにいな。あたしの手助けをしてくれ。
- カオナシ あ、あ...
- せん
千 おばあちゃん!...ありがとう、私行くね。
- ぜにーば
銭婆 大丈夫。あんたならやり^と遂げるよ。
- せん
千 私の本当の名前は、^{ちひろ}千尋っていうんです。
- ぜにーば
銭婆 ^{ちひろ}千尋。いい名だね。自分の名前を大事にね。
- せん
千 はい!
- ぜにーば
銭婆 さ、お行き。
- せん
千 うん!
おばあちゃん。ありがとう!さよなら!
- せん
千 ...ハク、聞いて。お母さんから聞いたんで自分では覚えてなかったん
だけど、私、小さい時川^おに落ちたことがあるの。
その川はもうマンションになって、うめられちゃったんだって...
でも、今思い出したの。その川の名は...その川はね、^{こはく}琥珀川。あなた
の本当の名は^{こはく}琥珀川...

Transcript copied under part VB

せん
千

ああっ！

ハク

^{ちひろ}千尋、ありがとう。私は本当の名は、ニギハヤミコハクヌシだ。

せん
千

ニギハヤミ...？

ハク

ニギハヤミ、コハクヌシ。

せん
千

すごい名前。神様みたい。

ハク

私も思い出した。^{ちひろ}千尋が私の中に^お落ちた時の事を。^{くつ ひろ}靴を拾おうとしたんだよ。

せん
千

そう。^{こはく}琥珀が私を^{あさせ}浅瀬に^{はこ}運んでくれたのね。うれしい...

Section 3

- リン 帰って来た！
- みんな おおっ...
- ゆばーば
湯婆婆 ぼう
坊は連れてもどって来たんだらうね？...えっ？
- ぼう
坊 ばあば！
- ゆばーば
湯婆婆 ぼう
坊—！！ケガはなかったかい！？ひどい目にあったねえ！
...ぼう
坊！あなた一人で立てるようになったの？え？
- ハク ゆばーば やくそく ちひろ
湯婆婆様、約束です！千尋と両親を人間の世界にもどしてください。
- ゆばーば
湯婆婆 フン！そう簡単にはいかないよ、世の中には決まりというものがあるんだ！
- みんな ブー、ブー！
- ゆばーば
湯婆婆 うるさいよっ！
- ぼう
坊 ばあばのケチ。もうやめなよ。
- ゆばーば
湯婆婆 へっ？
- ぼう
坊 とても面白かったよ、ぼう。
- ゆばーば
湯婆婆 へえっ？ででででもさあ、これは決まりなんだよ？じゃないと、のろいがとけないんだよ？
- ぼう
坊 千を泣かしたら、ばあば嫌いになっちゃうからね。
- ゆばーば
湯婆婆 そ、そんな...
- せん
千 おばあちゃん！
- ゆばーば
湯婆婆 おばあちゃん！
- せん
千 いま、そっちへ行きます。
- せん
千 おきて
掟の事はハクから聞きました。

Transcript copied under part VB

ゆばーば 湯婆婆 フン、いい覚悟^{かくご}だ。これはお前の契約書^{けいやく}だよ、こっちへおいで。
ぼう 坊、すぐ終わるからねえ。

せん 千 大丈夫よ。

ゆばーば 湯婆婆 この中からお前のお父さんとお母さんを見つけな。
チャンスは一回だ。ピタリと当てられたらおまえたちは自由だよ。

せん 千 ...?おばあちゃんだめ、ここにはお父さんもお母さんもいないもん。

ゆばーば 湯婆婆 いない!?それがおまえの答えかい?

せん 千 ...うん!

ゆばーば 湯婆婆 ピッ!?

ぶたーば 豚に化けた 大当たりー!

じゅうぎょういんたち 従業員達
みんな やったあ!よっしゃー!!!

ちひろ 千尋 みんなありがとう!!

ゆばーば 湯婆婆 行きな!おまえの勝ち^かだ!早く行っちまいな!

ちひろ 千尋 お世話になりました!

ゆばーば 湯婆婆 フン!

ちひろ 千尋 さよなら!ありがとう!

ぼう 坊 またねー。

Section 4

- ちひろ
千尋 ハク！
- ハク 行こう。
- ちひろ
千尋 お父さんとお母さんは！？
- ハク 先に行ってる！
- ちひろ
千尋 水がない...
- ハク 私はこの先には行けない。千尋^{ちひろ}は元来^{もと}た道をたどればいいんだ。でも
決して^{けっ}振り向い^ふちゃいけないよ、トンネルを出るまではね。
- ちひろ
千尋 ハクは？ハクはどうするの？
- ハク 私は湯婆婆^{ゆばーば}と話をつけて弟子^{でし}をやめる。平気さ、本当の名を取りもど
したから。
元^{もと}の世界に私ももどるよ。
- ちひろ
千尋 またどこかで会える？
- ハク うん、きっと。
- ちひろ
千尋 きっとよ。
- ハク きっと。
さあ行きな。振り向かないで。
- 母 ちひろ
千尋一。何してるの、早く来なさい。
- ちひろ
千尋 ああっ...！
お母さん、お父さん。
- 母 だめじゃない、急にいなくなっちゃ。
- 父 行くよ。
- ちひろ
千尋 お母さん、何ともないの？
- 母 えっ？引っ越しのトラック、もう着いちゃってるわよ。

Transcript copied under part VB

父 ^{ちひろ}千尋一。早くおいで一。
^{あしもと}足下気をつけな。

母 ^{ちひろ}千尋、そんなにくっつかないでよ。歩きにくいわ。

父 出口だよ。...あれ？

母 なあに？

父 すげー...あっ、中もほこりだらけだ。

母 いたずら？

父 かなあ？

母 だからやだって言ったのよー...

母 オーライオーライ、平気よ。

父 ^{ちひろ}千尋、行くよ一。

母 ^{ちひろ}千尋！早くしなさい！